

083215-000-7

57-621(洋)

英文典術語集

松原 秀成/著

M35

DAH-0703



57  
621

TECHNICAL TERMS

USED IN

ENGLISH GRAMMER

---  
Hidenari Matsuhara

"F-M" PAMPHLET BINDER. MADE BY F. MAMIYA & CO.



57  
621

二部  
二部

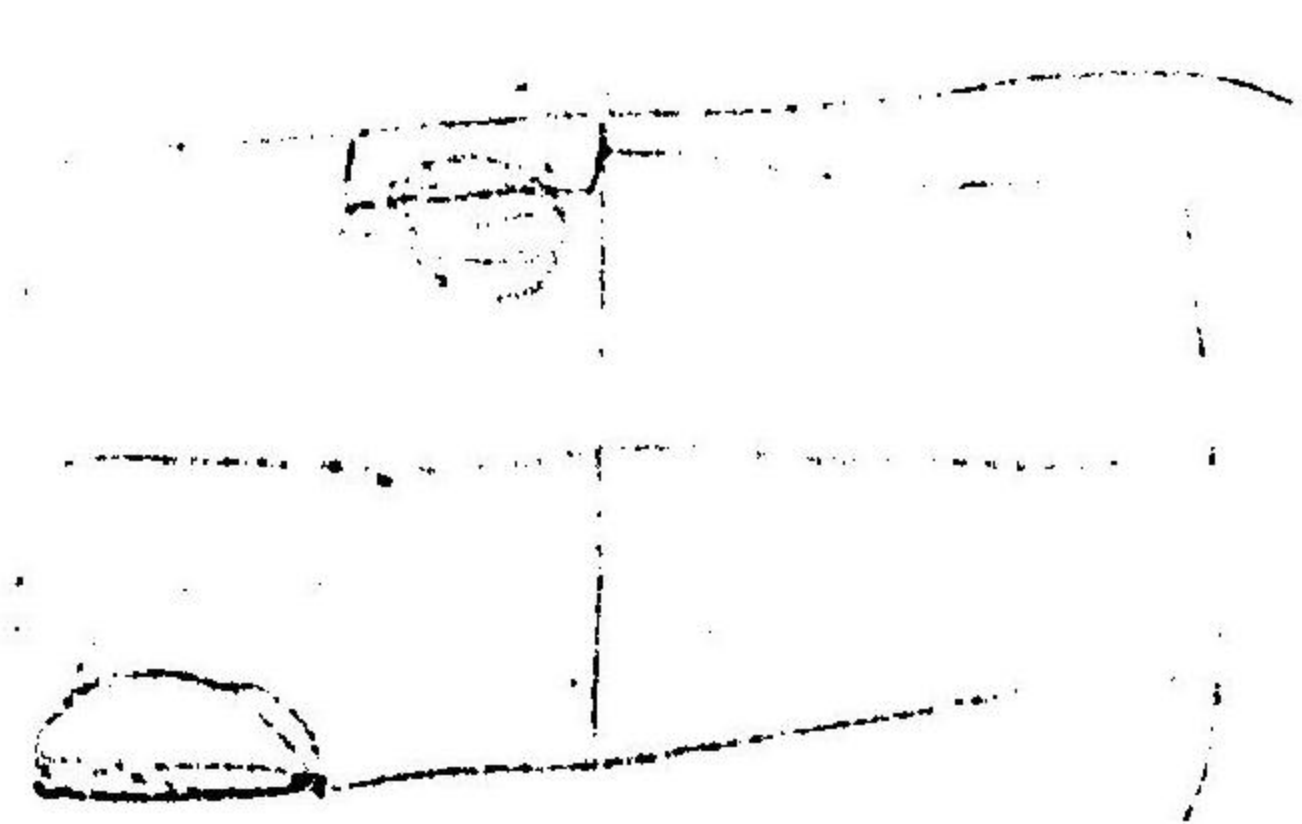
婦人

食堂

心

三

五



三  
部  
心

三  
部



24  
21

# Technical Terms

.. USED IN ..

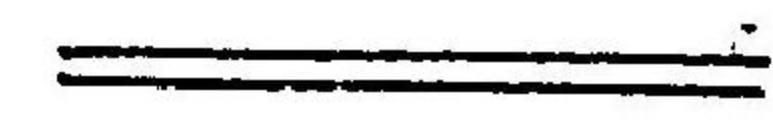
English Grammer.



## 英文典術語集

大阪府師範學校教諭

松原秀成著



HOBUNKAN,  
TOKYO & OSAKA.



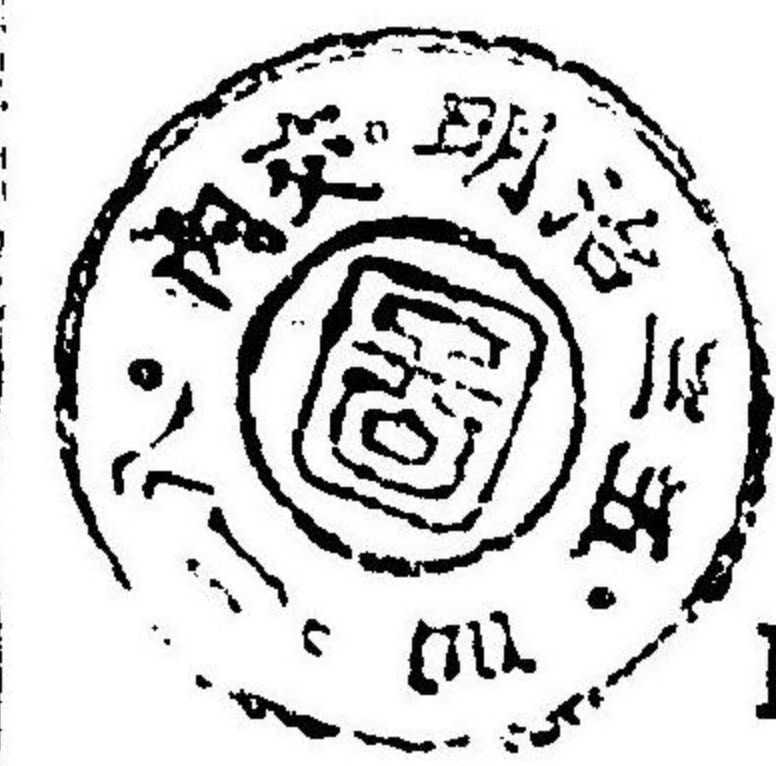
57  
621

57-621

TECHNICAL TERMS  
USED IN  
ENGLISH GRAMMAR.  
BY

H. MATSUBARA,

*Instructor in the Osaka-Fu Shihan-gakko.*



HOBUNKAN,

TOKYO & OSAKA.



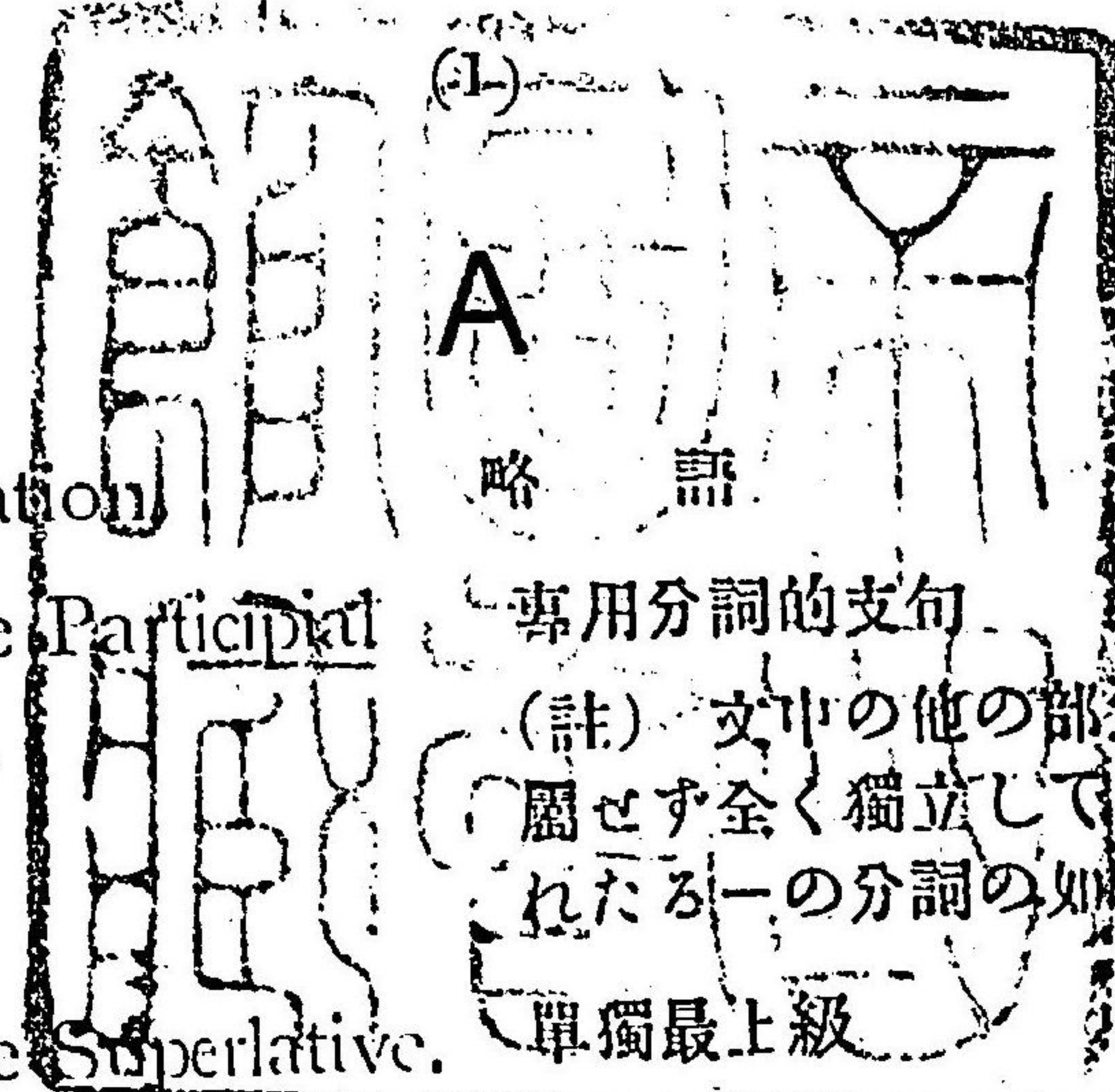
## 緒言

英文典の術語の如きは一切之を翻譯せずして生徒をして原語のまゝに記憶せしむるを善しとす。然れども事の實際に於ては往々然かすること能はずして斯くするときには生徒は譯語を全く知らざるが爲め術語の定義を一々諳記せざる可らざるが如き不便有るを免れず。故に著者は從來生徒より譯語の如何を問はるゝこと有れば隨時其譯語を教へたるなり。而して今や其隨時翻譯したるもの漸く多く以て一小冊子



と爲すに足る。乃ち爰に修辭學上の術語若干を加へて之を世に公けにす。固より區々たる冊子未だ悉さる所有りと雖ども英語學生にして常に之を手許に備へ置かば其文典の學習上一大便利を見出すべきは著者の確く信する所なり。

著者識



Abbreviation

略語

Absolute Participial Phrase.

専用分詞的支句

(註) 文中の他の部分に從屬せず全く獨立して用ひられたる一の分詞の如き支句

Absolute Superlative.

單獨最上級

(註) 別段他人と比較せずして'非常'に強き人と云ふが如き形容詞の使ひ方なり

Absolute use of the Verb.

動詞の専用

(註) 文中の他の部分に從屬せずに使用せられたる動詞にして分詞、不定法、命令法に斯の如き使ひ方あり

Abstract Noun.

抽象名詞、無形名詞

(註) 形體無きも吾人の心中に想ひ起すことを得べき事物の名を謂ふなり

Accent.

音節



(2)

<b>Active Voice.</b>	働態, 能働態 (註) 動詞を用ふる仕方の一にして他へ働きを仕掛くる態
<b>Acute Accent.</b>	' 強音符
<b>Address.</b>	名 宛
<b>Adjective.</b>	形 容 詞
<b>Adjective Clause.</b>	形容詞句 (註) 全體を一形容詞と見做すことを得べき句
<b>Adjective Phrase.</b>	形容詞的支句 (註) 全體を一形容詞と見做すべき句
<b>Adjective Pronoun.</b>	形容代名詞 (註) 單獨に使用すれば代名詞にして之に名詞を添へるときは形容詞と爲るべき詞
<b>Adjunct.</b>	附 語 (註) 主辭又は叙辭に附加

(3)

	したる言語
<b>Adverb.</b>	副 詞
<b>Adverbial Infinitive.</b>	副詞的不定法 (註) 一の副詞と見做すべき不定法
<b>Adverbial Clause.</b>	副詞句 (註) 一の副詞と見做すべき句
<b>Adverbial Phrase.</b>	副詞的支句 (註) 一の副詞と見做すべき支句
<b>Adversative-Conjunction.</b>	反對接續詞 (註) 前言に反對したる事實を云はんとき用ふる接續詞
<b>Adgreableness.</b>	爽快, 愉快 (註) 文の意義に就て斯く云ふなり
<b>Allegory.</b>	譬, 比喻



(4)

**Alphabet.**

アルハベツト

(註) 二十六文字を總稱して之をアルハベツトと謂ふアルハ並にベツトは元來希臘字母の名なるが此二字の名を其まゝに用ひて二十六文字の總稱と爲したるなり

**Alternative-**

採擇接續詞

**Conjunction.**

(註) 兩者の中一つを採擇するときに用ひる接續詞

**Ambiguity.**

曖昧

(註) 修辭學上の誤謬の一なり

**Amplification.**

敷衍

(註) 種々の句又は支句を加へて主辭並に叙辭の意を敷衍するなり

**Analysis.**

分解

(註) 語又は文の種類分けを爲すこと又文題なれば筆を下す前に條項の仕分けを

(5)

爲すことを謂ふなり

**Anecdote.**

逸事

(註) 賢者偉人の逸事を記述したる文を謂ふ

**Anticipative Object.**

豫定目的

(註) 後に來るべき一語一支句又は一句を豫め代表して文中の目的位置に使用せられたる'it' は之を豫定目的と謂ふなり

**Anticipative Subject.**

豫定主辭

(註) 後に來るべき一語一支句又は一句を豫め代表して句又は文の劈頭に置かれたる'it' は之を豫定主辭と謂ふなり

**Appeal to the Feelings.**

感情に訴ふること

(註) 議論文要件の一なり

**Apostrophe.**

' 略字符

**Apposition.**

同等, 對等



(6)

	(註) 一の名詞と他の名詞 又は代名詞又は一の名詞と 他の一の文と同一の地位に 在るを謂ふ
<b>Appositive Noun.</b>	同等名詞
	(註) 他の名詞又は代名詞 又は他の一の文と同一の地 位に在る名詞
<b>Argumentive- Discourse.</b>	議論文
<b>Article.</b>	冠詞
<b>Assertive Sentence.</b>	肯定文
	(註) 凡そ言を平かに述べ たるもの之を肯定文と謂ふ Declarative Sentence に同 じ
<b>Asterisk.</b>	* 星點 (註) 註解記號なり
<b>Asterism.</b>	** * 三星點 (註) 註解記號なり
<b>Auxiliary.</b>	助動詞

(7)

## B

<b>Ballad.</b>	市歌、童謠
<b>Beauty.</b>	美 (註) 修辭學上の美を謂ふ なり
<b>Biography.</b>	傳
<b>Biographical Sketch.</b>	傳記
<b>Blank Verse.</b>	無韻詩 (註) 順序を追ふて韻を用 ひざる詩を謂ふ
<b>Brace.</b>	{ 連綴括弧 (註) 俗に之を大括弧と云 ふ
<b>Bracket.</b>	[ ] 角括弧 (註) 俗に之を中括弧と云 ふ
<b>Breve.</b>	˘ 短音符 (註) 又單へに Short- Sound と云ふなり



(8)

C

- Capital Letter. 頭文字, 大文字, 華文字
- Cardinal Number. 基数  
(註) 通常数を謂ふ
- Caret. ^ 脱字符
- Case. 格  
(註) 名詞の格を謂ふ
- Cedilla. , セジラ符  
(註) ç の如し
- Certificate. 証明書, 免許状
- Chief Parts of the Verb. 動詞の主要分別  
(註) 動詞の現在と過去と過去分辭を謂ふ、Three Principal Parts of the Verb に同じ
- Choice of Titles. 敬稱の撰擇  
(註) 手簡文認め方要件の一

(9)

- Circumflex Accent. ^ 昂低音符  
(註) 一語の音の前半を上げて後半を下げる符號
- Circumlocution. 轉用  
(註) 二三の語を用ひて一語の意を轉寫するなり
- Classic. 古典  
(註) 古代の經典
- Clause. 句
- Clearness. 明晰  
(註) 文義の曖昧なる書き方を爲さざるを謂ふ
- Climax. 漸昇法  
(註) 次第に強き意味の語を用ふる法
- Closing Form. 末尾の様式  
(註) 手簡文の末尾の認め方を謂ふ
- Cognate Object. 同種目的



(10)

	(註) 動詞と類を同ふる 目的を謂ふ '歌を歌ふ' の如 し
<b>Collective Noun.</b>	集合名詞
	(註) 一團體を爲したるも の、名
<b>Colon.</b>	: 重 點
<b>Comma.</b>	、 句讀點
	(註) 此點は從來原語の音 を以て通するがゆへにコム マ又はカムマと云ふ方然る べし
<b>Common Gender.</b>	普通性
	(註) 男女孰れにも用ひら るべき名詞の性を謂ふ
<b>Common Noun.</b>	普通名詞
	(註) 一種類のものに通じ て用ひらるべき名詞
<b>Communication.</b>	通 信
<b>Comparative Degree.</b>	比較級

(11)

<b>Comparison.</b>	比 較
	(註) 形容詞の比較級なり
<b>Comparison in a Des- cending Scale.</b>	降級比較
	(註) 低き、更に低き、最も 低きの如く降下する比較な り
<b>Comparison in an As- cending Scale.</b>	昇級比較
	(註) 高き、更に高き、最も 高きの如く昇進する比較な り
<b>Complemen.</b>	補 充
<b>Complex Sentence.</b>	混 成 文
	(註) 從屬接續詞を用ひて 連結したる文
<b>Compositon.</b>	作 文
<b>Compound Personal Pronoun.</b>	複合人代名詞
	(註) Reflexive Pronoun に同じ
<b>Compound Reletive Pronoun.</b>	複合關係代名詞



(12)

- (註) who, which, what  
に ever 又は soever を加ふ  
れば復合関係代名詞と爲る
- Compound Sentence.** 復合文  
(註) 同等接續詞を用ひて  
連結したる文
- Compound Verb.** 復合動詞  
(註) Prepositional Verb  
に同じ
- Compound Word.** 復合語  
(註) 二三の語の組み合ふ  
て出来たる語なり
- Concise Style.** 簡捷格  
(註) 使用したる言語の數  
は少きも事理の明瞭なる文  
格を謂ふ
- Concrete Noun.** 具體名詞  
(註) 無形名詞以外の名詞  
は皆具體名詞なり
- Conjugation of the  
Verb.** 動詞の配合

(13)

- (註) 動詞の過去竝に過去  
分辭を作爲することを謂ふ  
但し其廣き意義にては '時'  
と '法' 等の配合をも含むこ  
と有り
- Conjunction.** 接續詞
- Conjunctive Phrase.** 接續支句  
(註) 全體にて一接續詞と  
見做すことを得べき支句
- Conjunction of Com-  
parison.** 比較接續詞  
(註) 比較の意味を有する  
接續詞を謂ふ
- Conjunction of Purpose.** 希望接續詞  
(註) 希望の意義を有する  
接續詞を謂ふ
- Conjunctive Adverb.** 接續副詞  
(註) 他語の意味に關係を  
及ぼすと同時に文中の二部  
分を連結する副詞
- Conjunctive Interre-  
gative Pronoun.** 接續疑問代名詞  
(註) Interrogative Pro-



(14)

	noun が文中の二部分を結合するときに此名稱を附するなり
<b>Co-ordinate Conjunction.</b>	同等接續詞 (註) 語と語又は句と句又は文と文を併立せしめて連結する接續詞
<b>Consonant.</b>	子音, 伴音
<b>Contracted Sentence.</b>	縮少文 (註) 委しく言ふときは同一の語を兩三度も用ふべき場合に於て其語を省略したる文
<b>Correlative Conjunction.</b>	雙關接續詞 (註) 常に一對を爲して用ひらるゝ接續詞
<b>Criticism.</b>	批評
<b>Cumulative Conjunction.</b>	添加接續詞 (註) 只一の言辭へ他の言辭を添加するのみの働きを有する接續詞

(15)

## D

<b>Dagger.</b>	† 十字票 (註) 註解記號にして又 Obelisk とも云ふなり
<b>Dash.</b>	一横線
<b>Date.</b>	日附け (註) 手簡文の日附けを謂ふ
<b>Declarative Sentence.</b>	平述文 (註) Assertive Sentence に同じ
<b>Declension.</b>	變化 (註) 語の變化を謂ふ
<b>Defective Verb.</b>	缺損動詞, 無變化動詞 (註) 法にも時にも配合し難き動詞
<b>Definite Article.</b>	定冠詞 (註) the を謂ふなり



(16)

<b>Definite Numeral.</b>	定數形容詞 (註) 定まりたる數を表示する形容詞
<b>Definition.</b>	定義 (註) 語の意義を定むること
<b>Degree.</b>	級 (註) 形容詞及び副詞の比較のときに此語を使用するなり
<b>Demonstrative Pronoun.</b>	指示代名詞 (註) 物を指し示す代名詞
<b>Dental.</b>	齒音文字 (註) 又 Sibilant とも云ふなり
<b>Denying.</b>	否定, 拒否
<b>Dependent Clause.</b>	屬句 (註) 他句に従屬する句
<b>Derivative.</b>	引用語 (註) 基語に冠頭字又は接

(17)

<b>Descriptive Adjective.</b>	尾字を加へたるもの又は兩方を加へたるものを悉皆引用語と云ふなり 寫狀形容詞 (註) Qualifying Adjective に同じ
<b>Description.</b>	寫狀文 (註) 景色又は物の形狀を寫したる文を謂ふ
<b>Dialect.</b>	方言 (註) - 地方のみに使用せらるゝ言語
<b>Dialogue.</b>	問答, 談話
<b>Diffuse Style.</b>	層重格 (註) 層々説き起して掻き所へ手の届く様に記述したる文格を謂ふなり
<b>Diphthong.</b>	二重音 (註) 母音の重なりたるもの
<b>Diplomatic Correspondence.</b>	國際公文



(18)

- Direct Narration.** (註) 國と國との間に往復する公文  
直接叙事  
(註) 他人の云ふたる言語を其言語のまゝに記述したるときは之を直接叙事と謂ふ而して其言語は無論引用票にて仕切るなり
- Direct Object.** 直接目的  
(註) 二重目的の中人を表示する名詞又は代名詞は常に直接目的なり
- Direct Question.** 直接疑問  
(註) Yes 又は No を用ひて答ふることを得べき疑問
- Disguished Preposition.** 假裝前置詞  
(註) 真正の前置詞に代りて用ひらるべき字又は語を謂ふ
- Dissyllable.** 二綴音
- Distributive Adjective.** 分別形容詞

(19)

- Double Dagger.** (註) 人又は物の別々なる意味を表示する形容詞  
‡ 復ト字票  
(註) 註解記號の一なり
- Double Feminine.** 二重女性  
(註) 女性を表示す二様の接尾字を有する名詞
- Double Object.** 二重目的  
(註) Direct Object と Indirect Object を合せて斯く云ふなり
- Double Parts of Speech.** 二重品詞  
(註) 一語にて形容詞と動詞の趣きを兼有する分辭の如きものを謂ふ
- Double Possessive.** 二重所有  
(註) ours, yours の如き代名詞を謂ふ
- Double Preposition.** 二重前置詞  
(註) 一處に二重の前置詞



(20)

Drama. が用ひられたるとき斯く云ふなり  
浄瑠璃, 戯曲

### E

Elegy. 悼歌, 挽歌  
 Ellipsis. \*\*\*, ... .. —— 省略符  
 Emphasis. 強語音  
 (註) 一語の音を強むるなり  
 Emphatic Pronoun. 強意代名詞  
 (註) Reflexive Pronoun に同じ  
 Envelope. 封筒  
 Epitaph. 碑銘  
 Error. 誤謬  
 Essay. 察理文  
 (註) 事物の道理の推察を

(21)

主眼としたる文を謂ふなり  
 Exclamation Point. ! 感歎點  
 Exclamative Sentence. 感歎文  
 Exclamatory Phrase. 感歎支句  
 (註) 全體にて—の感歎詞と見做すべき支句  
 Exclamatory Pronoun. 感歎代名詞  
 (註) 感歎の意を表示する代名詞  
 Exercis. 習例

### F

Fable. 作り噺し  
 Factitive Verb. 要補充他動詞  
 (註) —の目的にては叙辭の意味完全ならざるが爲め補充を要する他動詞にして Imcomplete Transitive と云ふなり



(22)

**Falling Inflection.** 抑音, 低音  
**Feminine Gender.** 女性  
 (註) 名詞の性なり  
**Fiction.** 雑説  
 (註) 實事と想像と相半ばし又は全く想像上より作爲したる文章を謂ふ  
**Figure.** 潤飾  
 (註) 華やかなる言語の使用又は巧に譬へを引くこと  
**Final Letter.** 末尾字  
 (註) 一語に就て云ふなり  
**Finite Verb.** 定動詞  
 (註) Predicate Verb として用ふることを得べき動詞は皆之を Finite Verb と謂ふ其 '人稱' と '數' は常に主辭と同様なり  
**First Person.** 一人稱  
**Florid Style.** 華麗格

(23)

(註) 盛んに準飾語を使用する文格を謂ふ  
**Folding.** 手紙の折り方  
**Formation of the Tenses.** 時の作り方  
 (註) 時とは動詞の '時' を謂ふなり  
**Function.** 働き  
 (註) 語の働きのなり  
**Future Perfect Tense.** 充分未來  
 (註) 動詞の時の用ひ方にして或る未來時に於て或る事柄の完成すべきことを表示す  
**Future Tense.** 未來  
 (註) 動詞の三大時の一  
**G**  
**Gender.** 性  
 (註) 名詞の性なり



(24)

Gerund.

名詞狀動詞

(註) Verbal の一にして  
單へにゼラントと云ふ方然  
るべし

Gerundive Use of the  
Participle.

分辭のゼラント的使用

(註)分辭のゼラントに似た  
る用ひ方を謂ふなり

Gesture.

科 語

(註)所謂仕方ばなしのこ  
にて種々に手などを動かし  
て話しの代用を爲すを謂ふ

Grammar.

文典, 文法, 語典

(註) 本來語典と云ふ方適  
常なれども世上一般文典又  
は文法と稱するが爲め今是  
等を語典より上位に掲げた  
るなり

Grammatical Subject.

文法的主辭

(註) 文法に依りて見定め  
たる主辭

Grandure.

壯大, 雄偉

(25)

Grave Accent.

(註) 文章の品位を謂ふ  
、低音符

H

Harmony.

音 調

(註) 讀みて音調の好き様  
に注意すること

Hymn.

讚美歌

(註) Psalm に同じ

Hyphen.

- 連字符

I

Idiom.

話 法

Idiomatic Use.

習慣用法

(註) 談話上の語の用ひ方

Illative Conjunction.

推考接續詞



(26)

- Imitation.** (註) 物の理由を表示する  
接續詞  
擬似, 模擬
- Imperative Mood.** (註) 天然を模擬すること  
命令法  
(註) 動詞の法の一
- Imperative Sentence.** 命令文
- Improper Diphthong.** 不正當二重音  
(註) 二重母音字の中一母  
音字のみ發音せらるゝもの
- Incomplete Transitive.** 不完全他動詞  
(註) Factitive Verb に同  
じ
- Indefinite Article.** 不定冠詞  
(註) a 及び an を謂ふなり
- Indefinite Demonstrative Pronoun.** 不定數指示代名詞  
(註) 數の定め無き指示代  
名詞

(27)

- Indefinite Numeral Adjective.** 不定數形容詞  
(註) 數の定め無き形容詞
- Independent Clause.** 獨立句  
(註) Co-ordinate Con-  
junction を用ひて結合す  
べき句を謂ふ
- Independent Element.** 獨立成分  
(註) 文中の Nominative  
Independent 又は Abso-  
lute Participial Phrase を  
謂ふ
- Index.** 及び 指し示し, 索引
- Indicative Mood.** 直説法  
(註) 動詞の‘法’の一にし  
て言を平かに述ぶるなり
- Indirect Narration.** 間接敘事  
(註) 他人の云ひたる言語  
の意味を其言語のまゝにて  
ゞは無く何々云ふことを  
言ひたりと記述するときは  
即ち間接敘事なり



(28)

Indirect Question.	間接疑問 (註) Yes 又は No を用 ひて答へ難き疑問を謂ふなり
Indlinitive Mood.	不定法 (註) Verbal の一種なり
Interjection.	感歎詞, 問投詞
Interrogation Point.	? 疑問點
Interrogative Adverb.	疑問副詞 (註) 疑問を表示する副詞
Interrogative Sentence.	疑問文
Intranstive Verb.	自動詞 (註) 働きの他に及ばざる 動詞
Intranstive Verb of Complete Predication.	完全敘述自動詞 (註) 意味の自ら完自なる 自動詞
Intranstive Verb of In- complete Predication.	不完全敘述自動詞 (註) 意味の自ら完全なら

(29)

Introductory Adverb.	ざる自動詞 發端副詞 (註) 何等の意味無くして 文の發端に用ひらるゝ副詞 なり there' を謂ふ
Invention.	立案
Irony.	諷刺, 反語
Irregular Comparison.	不規則比較 (註) 定法に據りて比較し 難きものゝ比較を謂ふ
Irregular Verb.	不規則動詞 (註) Strong Verb に同じ
Italic.	イタリック書體
<b>J</b>	
Joint Possession.	共同所有 (註) 名詞の所有格にして 兩人共同の所有を表示する 書き方を斯く云ふなり



(30)

**K**

**Key.** 註 解

**L**

**Labial.** 唇音文字

**Latin Comparative.** 拉丁比較級  
(註) 拉丁語の比較法を今尚ほ保有する名詞

**Latin Influence.** 拉丁語の能化力  
(註) 拉丁語の英語に及ぼしたる勢力を謂ふ

**Letter.** 文字, 手簡

**Letter of Bussiness.** 商用文  
(註) 又單へに Business Letter とも云ふなり

**Letter of Condolence.** 吊慰文

**Letter of Congratulation.** 祝賀文

(31)

**Letter of Friendship.** 友誼文

**Letter of Introduction.** 紹介文

**Letter-writing.** 手簡文, 手簡の認め方

**Liquid.** 流音文字

(註) 他字の音と容易に合同すべき音を有する文字を謂ふ

**Logical Subject.** 論理的主辭

(註) 論理上より見定めたる主辭

**Lylic Poetry.** 琴歌

(註) 本來は琴歌なれども他の樂器にて奏する論曲をも亦之を Lylic Poetry と云ふなり

**M**

**Macron.** -長音符

(註) 又單へに Long



(32)

	Sound	とも云ふなり
<b>Mannerism.</b>	慣手法	(註) 文家夫れ夫れの慣手法を謂ふなり
<b>Masculine Gender.</b>	男性	(註) 名詞の性なり
<b>Material Adjective.</b>	物質形容詞	(註) 物質名詞に由來する形容詞
<b>Material Noun.</b>	物質名詞	(註) 物の性質に附したる名詞
<b>Metaphor.</b>	比喩	(註) "That man is a fox" の如く直ちに比する方法を謂ふなり
<b>Middle English.</b>	中古英語	
<b>Miscellaneous Exercise.</b>	雜習例	(註) 雜りたる習例

(33)

<b>Mixed Verb.</b>	混合動詞	(註) 規則不規則何れの方にも用ひらるべき動詞を謂ふ
<b>Model.</b>	例, 作例	
<b>Modern English.</b>	近代英語	
<b>Modifier.</b>	能化言	(註) 他語の意味を制する詞
<b>Monosyllable.</b>	一綴音	
<b>Mood.</b>	法	(註) 動詞の法
<b>Motion.</b>	活動	(註) 文勢の活動を謂ふ
<b>Multiplicative.</b>	倍数形容詞	(註) 一倍二倍と云ふ様に倍数を表示する形容詞



(34)

# N

<b>Narration.</b>	叙 事 文
<b>Negative Pronoun.</b>	否定代名詞 (註) 否定の意を表示する代名詞
<b>Negative Sentence.</b>	否 定 文
<b>Nervous Style.</b>	果 銳 格 (註) 氣力ある言語を用ふる文格にして殊に議論文に適するなり
<b>Neuter Gender.</b>	中 性 (註) 名詞の性の一にして其實は性の無きものを斯く云ふなり
<b>News Letter.</b>	通 信 文 (註) 新聞の通信文を謂ふ
<b>Nominative Case.</b>	主 格 (註) 名詞の格の一
<b>Note.</b>	短文の手簡, 註

(35)

<b>Note of Invitation.</b>	招 待 文
<b>Notice.</b>	告示, 公告
<b>Noun.</b>	名 詞
<b>Noun Alike in Both-Numbers.</b>	單復同形名詞 (註) 復數名詞として用ひるときも單數のときと同様の形ちを有する名詞
<b>Noun-Clause.</b>	名 詞 句 (註) 全體にて一の名詞と見做すべき句を謂ふ
<b>Noun Infinitive.</b>	名詞不定法 (註) 不定法を名詞と同様に用ひたるとき斯く云ふなり
<b>Noun of Multitude.</b>	多數名詞 (註) Collective Noun は集合したる一團體を謂ひ Noun of Multitude は一團體を爲したるもの、個人よりして云ふなり



(36)

<b>Noun of Personified Object.</b>	擬人名詞 (註) 人に擬して固有名詞の如くに用ひられたる名詞を謂ふなり
<b>Noun-Phrase.</b>	名詞的支句 (註) 全體にて一の名詞と見做すことを得べき支句
<b>Novel.</b>	小説
<b>Number.</b>	數 (註) 名詞の'數'なり
<b>Numeral Adjective.</b>	數形容詞 (註) 物の數を表示する形容詞を謂ふ從來物の量を表示するものをも亦皆此部類に入れたれども些しく妥當ならざるが爲めに今や文法家の多くは Quantitative Adjective の名を擇ぶなり

(37)

○

<b>Obituary.</b>	小傳
<b>Object.</b>	目的
<b>Objective Adverbial.</b>	目的狀副詞 (註) 目的と同様に見做すべき副詞
<b>Objective Case.</b>	目的格, 資格 (註) 名詞の格の一
<b>Objective Complement.</b>	目的補充 (註) 目的に對する補充を謂ふ
<b>Occasional Sound.</b>	臨時音 (註) 母音字の臨時音を謂ふなり
<b>Ode.</b>	短歌, 絕句
<b>Official Letter.</b>	公用文
<b>Old English.</b>	古代英語
<b>Omission.</b>	省略



(38)

**Omission of the Article.** 冠詞の省略  
 (註) 叮嚀に書くときは冠詞を挿入すべき場合に於て之を省略すること

**Optative Sentence.** 希望文  
 (註) 吾人の希望を表示する文但し或は之を命令文の部へ入るゝこと有り

**Oration.** 公議, 公説

**Ordinal Number.** 序數, 次第數  
 (註) 第一第二と數ふる如き順序數を謂ふ

**Orthography.** 正字法  
 (註) 文字の使用を正す學科

**P**

**Palatal.** 上顎音文字

**Paragraph.** ¶ 節

(39)

**Parallel.** (註) 文章中の一節  
 || 雙行線  
 (註) 註解記號の一

**Parenthesis.** 註句, ( ) 括弧

**Parsing.** 解釋  
 (註) 此 Parsing と云ふ語は '語' の文法上の解釋のみに適用するものと知るべし

**Participle.** 分 辭

**Participial Preposition.** 分詞的前置詞  
 (註) 分詞の如くに使用せられたる前置詞を謂ふ

**Parts of Speech.** 八品詞  
 (註) 通常八品詞と云ふなり但し冠詞を別に一種類のものと爲すときは九品詞と爲る

**Passive Voice.** 被働態, 所働態  
 (註) 動詞を用ふる仕方の一にして他より働きを仕掛



(40)

	けられたる態
<b>Past Participle.</b>	過去分辭 (註) 過去時を表示する分辭にして形容詞の趣きを存す
<b>Past Perfect Tense.</b>	充分過去 (註) 動詞の時の用ひ方にして或る過去時に於て或る事物の完成したることを表示す
<b>Past Tense.</b>	過去 (註) 動詞の三大時の一
<b>Pause.</b>	音聲の停止 (註) 讀聲のことを謂ふなり
<b>Penmanship.</b>	書法
<b>Period.</b>	・點 (註) Full-stop とも云ふなり
<b>Person.</b>	人稱

(41)

<b>Personal Pronoun.</b>	人代名詞 (註) 人を表示する代名詞
<b>Personification.</b>	擬人法 (註) 國土山川鳥獸草木等を人に見立てることにて潤飾法の一なり
<b>Petition.</b>	請願 (註) 請願書類を謂ふなり
<b>Phrase.</b>	支句
<b>Phrase as Object.</b>	目的支句 (註) 支句全體を目的と爲すときに斯く云ふなり
<b>Phrase-Conjunction.</b>	支句前置詞 (註) 支句の如き前置詞
<b>Pleonasm.</b>	言語の層疊 (註) 同一の言語を殊更に幾度も使用することにて潤飾法の一なり
<b>Plural Number.</b>	復數



(42)

<b>Poem.</b>	(註) 名詞の数の一 詩
<b>Poetry.</b>	詩學, 詩
<b>Polysyllable.</b>	多綴音 (註) 四以上の綴音を謂ふ
<b>Positive Degree.</b>	定級 (註) 未だ比較せざる前の 形容詞を斯く云ふなり
<b>Possessive Case.</b>	持格, 所有格 (註) 名詞の格の一
<b>Possessive Pronoun.</b>	所有代名詞 (註) 所有を表示する代名 詞
<b>Postal Card.</b>	郵便はかき
<b>Potential Mood.</b>	可成法, 含勢法 (註) 動詞の法の一
<b>Precision.</b>	嚴整 (註) 確も緩漫なる言辭を 用ひざること

(43)

<b>Predicate.</b>	叙辭, 屬位 (註) 主辭に従屬する言辭 を謂ふ
<b>Predicate-Modifier.</b>	屬位能化言 (註) 屬位動詞の意味を制 する詞
<b>Predicate-Verb.</b>	屬位動詞 (註) 屬位に用ひられたる 動詞
<b>Prefix.</b>	冠頭字
<b>Preposition.</b>	前置詞
<b>Prepositional Verb.</b>	前置詞付き動詞 (註) Compound Verb に 同じ
<b>Present English.</b>	現今英語
<b>Present Participle.</b>	現在分辭 (註) 現在を表示する分辭 にして語の末尾に ing を 有す



(44)

- Present Perfect Tense.** 充分現在  
 (註) 動詞の‘時’の用ひ方にして現在時に於て或る事柄の完成したることを表示す
- Present Tense.** 現 在  
 (註) 動詞の三大時の一
- Primitive Word.** 基 語  
 (註) Rootword に同じ
- Principal Clause.** 本句, 主句
- Principal Elements.** 主要成分  
 (註) 文のSubject と Predicate を謂ふ
- Progressive Form.** 進 行 體  
 (註) 働きの進行中を表示する動詞
- Pronominal Adjective.** 代名形容詞  
 (註) 代名詞の性質を有する形容詞
- Pronoun.** 代 名 詞

(45)

- Proper Adjective.** 固有形容詞  
 (註) 固有名詞に由來する形容詞
- Proper Diphthong.** 正當二重音  
 (註) 二個の母音字が共に發音せらるゝもの
- Proper Noun.** 固有名詞  
 (註) 一人一物に固有の名詞
- Propriety.** 適 用  
 (註) 類語を吟味して其中に就て我が云はんを欲する所の旨意に最も能く適ふたる語を採擇すること
- Prose.** 散 文
- Prosody.** 韻 學
- Proverb.** 諺, 俚言
- Province of Grammar.** 文典の學域  
 (註) 文典にて講窮すべき學問の區域



(46)

**Psalms.** 頌歌  
 (註) Hymn に同じ

**Punctuation.** 句讀法  
 (註) 文章の意義を明瞭ならしめんが爲めに必要の場所へ點又は記號を附する法

**Purity.** 精純  
 (註) 國語の純粹なるものを擇ぶこと

### Q

**Qualifying Adjective.** 名狀形容詞  
 (註) Descriptive Adjective に同じ

**Quantitative Adjective.** 數量形容詞  
 (註) 物の數量を表示する形容詞

**Quantitative Pronoun.** 數量代名詞  
 (註) 物の數量を表示する

(47)

**Quantify.** 代名詞

**Question.** 量

**Quotation-point.** 疑問, 質問, 問題  
 “ ” 引用票  
 (註) 他人の述べたる言辭を其まゝに自己の作文中へ挿入するとき此票を用ふるなり

### R

**Real Object.** 實目的  
 (註) 文中の目的位置に在る 'it' にて豫め代表せられたる一語一支句又は句は之を實目的と謂ふなり

**Real Subject.** 實主辭  
 (註) 句又は文の劈頭に在る 'it' にて豫め代表せられたる一語一支句又は句は之を實主辭と謂ふなり



(48)

<b>Reason.</b>	理 由
<b>Reasoning.</b>	推 理
<b>Redundancy.</b>	意義の重複 (註) 一文中の一支句などの意義の重複することにて作文家の誤謬の一
<b>Reflexive Object.</b>	反映目的 (註) 目的位置に用ひられたる反映代名詞にして又 Personal Object とも云ふなり
<b>Reflexive Personal Pronoun.</b>	反映目的 (註) 某自身と云ふ如く意味の反映する代名詞
<b>Regular Verb.</b>	規則動詞 (註) Weak Verb に同じ
<b>Relative Pronoun.</b>	關係代名詞 (註) 必ずや其先行詞に關係するが爲めに斯く云ふなり

(49)

<b>Reply.</b>	返 事 (註) 手簡の返事
<b>Retained Object.</b>	保持目的 (註) 二重目的の一を主辭と爲したるときに止まりて其目的と爲りたるものを謂ふ
<b>Review.</b>	復 習
<b>Review Questions.</b>	復習問題
<b>Revision.</b>	校正, 訂正
<b>Rhetoric.</b>	修 辭 學
<b>Rhyme.</b>	押 韻 (註) 詩作に韻を踏むこと
<b>Rising Inflection.</b>	揚音, 強音
<b>Romance.</b>	稗 史
<b>Roman Letter.</b>	羅馬文字
<b>Root-Word.</b>	根 元 語 (註) Primitive Word に同じ



(50)

Rule.

規則

Running Title.

表題

(註) Head Line又は單へ  
に Heading とも云ふなり

S

Seal.

印

Sealing.

封じ方

Second Person.

二人稱

Section.

章

Semicolon.

; 半重點

Semi-Vowel.

半母音

Sentence.

文

(註) 此語先代既に文と譯  
して今や容易に変更すべか  
らず故に此處に於ても亦之  
を'文'と譯したるなり

Separate Possession.

人別所有

(51)

(註) 兩人別々の所有を表  
示する持格の認め方

Sermon.

説教、説法

Signature.

署名

Simile.

引喩

(註) 何々の如くにと云ふ  
様な言ひ方にて比喩する  
を謂ふ

Simple Adverb.

單一副詞

Simple Predicate.

單一叙辭

Simple Preposition.

單一前置詞

Simple Style.

純粹格

(註) 人の天性に任せて思  
想を述べ六かしき言語を用  
ひずして自然の巧妙を得た  
る文格を謂ふなり

Simple Subject.

單一主辭

Single Quotation-point. ' ' 單一引用票

(註) 引用したる章句の中  
へ重ねて他人の言辭を引用



(52)

	するとき又は他人の言辭を 少しく縮めて書きたるとき に此票を用ふるなり
<b>Singular Number.</b>	單 數 (註) 名詞の數の一
<b>Small Letter.</b>	小 文 字
<b>Solemn Form.</b>	莊 重 體 (註) 語の莊重なる用ひ方 を謂ふ
<b>Sonnet.</b>	十四行詩
<b>Stanza.</b>	詩の一節
<b>Strength.</b>	勢 力 (註) 讀者をして倦まざら しむる様に叙述するなり
<b>Strong Conjugation.</b>	強 配 合 (註) Strong Verb の配合 を謂ふ
<b>Strong Verb.</b>	強 動 詞 (註) 不規則動詞を謂ふなり

(53)

	り之を古體と稱す
<b>Style.</b>	文 格
<b>Subject.</b>	主辭, 主位
<b>Subjective Comple- ment.</b>	主辭補充 (註) 主辭に對する補充を 謂ふ
<b>Subject-Modifier.</b>	主位能化言 (註) 主辭の意を制する詞
<b>Subjunctive Mood.</b>	接續法, 疑問法 (註) 動詞の‘法’の一なり
<b>Subordinate Element.</b>	從屬成分 (註) 文中の Subject-Mo- difier 又は Predicate-Mo- difier を謂ふなり
<b>Subordinate Conjun- tion.</b>	從屬接續詞 (註) 本句と屬句の間に用 ふべき接續詞
<b>Substitute for a Noun.</b>	名詞代用語 (註) 名詞に代りて用ひら



(54)

	るべき語
Suffix.	接尾字
Superlative Degree.	最上級 (註) 形容詞並に副詞の比較の最上級なり
Superscription.	手簡の表書 (註) Address に同じ
Syllable.	綴り, 綴字, 連字
Syllabication.	綴り方
Synonyms.	類語 (註) 互に類似したる語
Syntax.	連語法, 作文法 (註) 文の構成法を論ずるを Syntax と謂ふなり
Synthesis.	綜合 (註) Analysis の反對なり

(55)

# T

Tale.	物語
Tautology.	語音の重複 (註) 同一語を三四度も使用することにて作文家の避くべき誤謬の一
Tense.	時 (註) 動詞の‘時’なり
Third Person.	三人稱
Three Principal Parts of the Verb.	動の三大分別 (註) Chief Parts of the Verb に同じ
Tilde.	～波點 (註) 發音符の一
Title-page.	表題紙 (註) 書籍の名を表示する最初のページを謂ふなり
Transitive Verb.	他動詞



(56)

(註) 働きを他へ及ぼす動詞

**Transitive Verb used Intransitively.** 自動用他動詞  
(註) 自動詞の様に用ひられたる他動詞

**Travel.** 旅行記

**Triphthong.** 三重音  
(註) 母音の三重なるもの

**Trisyllable.** 三綴音

U

一 致  
(註) 文意の側道へ滑り込まぬ様に注意するなり

**Unity.**

**Usage.** 用法, 慣例

(57)

V

**Variety of Arrangement.** 體裁の變化  
(註) 文中の支句又は屬句の位置を變換するを謂ふ

**Variety of Expression.** 發辭の變化  
(註) 原意の相違せざる様に注意して文中の數語を變更するを謂ふ

**Verb.** 動詞

**Verbal.** 擬似動詞  
(註) 動詞に似たる詞なるも Predicate-Verb として使用し難きものを斯く云ふなり

**Verbal Adjective.** 動詞狀形容詞  
(註) Present Participle 及び Past Participle を謂ふなり

**Verbal Noun.** 動詞狀名詞  
(註) 動詞の様な名詞



(58)

Verbal Phrase.	動詞支句 (註) 全體にて一の動詞の 趣きを有する支句
Versc.	詩句
Voice.	態, 聲
Versification.	詩作
Vowel.	母音, 主音
Voyage.	航海記

W

Weak Conjugation.	弱配合 (註) Weak Verb の配合 を謂ふ
Weak Verb.	弱動詞 (註) 規則動詞を謂ふなり 之を新體と稱す
Word-Formation.	言語の仕組 (註) 言語の由來及び其變 化を論ずるを謂ふなり

不許複製

明治三十五年四月十九日印刷  
明治三十五年四月廿六日發行

著作者 松原秀成

發行者 吉岡平助  
大阪市東區備後町四丁目七十八番屋敷

印刷者 金子久太郎  
神戸市榮町六丁目三十三番地

發行所 東京神田駿河臺南甲賀町  
大阪市備後町四丁目 寶文館



28/38

## CONVERSATION AND COMPOSITION.

C. M. Cady and Y. Hachiya's  
Foundation Exercises in  
English Conversation and Composition.  
I. 45 sen. II. 50 sen.

Y. Hachiya's  
**THE HUMAN BODY.**  
The Conversation Book about the Human Body.  
30 sen.

C. M. Cady and Y. Hachiya's  
**DESCRIPTIONS OF ANIMALS.**  
The Conversation Book about the Zoology.  
60 sen.

M. Briant Daniel and N. Nishiyama's  
Living Method for Learning  
how to write English Composition.  
Written for both 4th and 5th year classes  
of Middle School.  
55 sen.



